



広々として明るく、風通しのいいリビングは家族が自然と集う。わんぱく盛り4人の男の子がのびのびと過ごしている



2年前に2階をリフォームして、台所や浴室などの水回りを増設、完全分離型の2世帯にして上江洲さん家族が住み始めた



22年前、祖父母が家を見て帰る前に家族で撮った記念写真。写真後列右から3人目が上江洲さん

取材協力：柳うみハウジング

第22年 4世代を育む家
上江洲さん宅

わが家の事情 ④

うるま市の上江洲安博さん(40)は、2年前、長男の小学校入学を機に、祖父が建てた当時築20年の実家をリフォームし、家族で移り住んだ。4世代にわたる家族を育み変化してきた間宅には、元気な声と笑顔がいつもあふれている。

うるま市川田の通り沿いに建つコンパクトブロック造の2階建ての上江洲さん宅。以前は祖父が住む小さな家だったが、建物の老朽化や将来の子世帯との同居も考え、祖父が22年前に建てた、祖母と一緒に父母と上江洲さんら兄弟が住むようになった。「2世帯住宅ということでは、外階段はあったが、内階段もあり、キッチンや浴室は1階だったが、ほぼ同居の状態だった」と上江洲さん。その後、祖母も亡くなり、上江洲さんらも次々と独立。家は父母と弟の3人になった。

思ったと振り返る。大妻はとに看護士、生活

分離型2世帯で快適・安心

下階の住人に気を遣い叫ぶこともあったが、今はのびのびと過ごしている。「目を細める、子どもたちも『お友達がたくさん遊びにくるよ』という

上江洲さんは結婚してアルバイトで生活していたが、3人の男の子に恵まれ、住まいが手狭になっていた。また、長男が小学校へ入学的な時期を迎えていた。

サイクルが父母とは違うので、お互い気兼ねなく暮らしているよう、内階段を取り除いて2階にも水回りを設置し、部屋も増築して、分離型の2世帯にした。

「僕も長男で、いずれ両親と住むことは決まっていたし、子どもを転校させたくなくて、この機会に移ろうと

明るくて風の通りも良く、ほとんど片思いらずだという。広々とした空間で、子どもたちが元気に走り回る。以前は

学校からの帰宅時には、父母がいるので、安心して仕事に励める」と上江洲さん。両親も孫と囲まれながら「張り合いがある」と顔をほころばせる。この家に来て4男も生まれ、ますますにぎやかな上江洲家。元気な声と笑顔にあふれている。

取材 赤橋功美・ライター

実る！DIY 手作りのベビーゲート



1歳になる4男のために、上江洲さんの父が手作りした。床を傷つけないようゲートの下にビニールホースを付け、ケガをしないようすべての角を削って丸みをつけるなど、孫を思う愛情とアイデアがたっぷり。上江洲さんは「歩き始めて目が離せない時期だが、これがあると扉を閉め切らなくて済む。扉を入れたつ、子ども安心して育てられる」と笑顔。